

寄贈本リスト

ニュートリノで探る宇宙, 中村健蔵, 培風館, 解説書, B6判, 171 p, 1530 円
オーロラのふるさと—地球磁気圏の科学—, 宇宙科学研究所, 宇宙科学振興会, 解説書 (ビデオ), 3300 円
《光世紀世界》への招待—近距離の恒星をさぐる, 石原藤夫, 裳華房, 資料集, B6判, 165 p, 1339 円

宇宙はどこまでわかったか, 岡村定矩, 岩波書店, 解説書, B6判, 116 p, 1000 円
天文小辞典, ジャクリン・ミットン著, 北村正利他翻訳・監修, 地人書館, 資料集, A5判, 413 p, 4326 円
THE SUPERPOWER SPACE RACE, Robert Reeves, Plenum, 読み物, A5判, 437 p, 英語
STAIRWAY to the STARS, Barry Parker, Plenum, 読み物, A5判, 350 p, 英語

雑報

報告：天文教育フォーラムと展示会 「今、天文学で何が教えられているか？」

平成6年5月19～21日に大阪吹田市で開かれた日本天文学会春季年会において、表記のフォーラムと教科書展示会が開かれました。日本天文学会と天文教育普及研究会の共催の催しで、フォーラムは第6回目になります。その概要をここに報告します。

1. 教科書の展示会

現在、我国の学校と大学で使用されている天文学の内容を含む教科書を出来るだけ数多く収集して一同に展示し、参加者が天文教育の現状を知り、考えるための資料となることを目指しました。展示内容は、①小学校と中学校で使用されている理科の教科書、②高等学校地学の教科書、③大学向けの天文学の教科書の一部、④米国と英国の理科の教科書の一部、となりました。一般の者には教科書の全てを比較して見るという機会はずありませんので、この会期中を通じて多数の方に興味深く閲覧していただき、あちこちで討論の輪ができていました。

2. フォーラム

5月19日12時30～13時30分、大会場において「今、天文学で何が教えられているか？」をテーマにフォーラムが約60名の出席者のもとに開催されました。話題提供として、①「学会としての天文教育の取り組み」についての福江純氏（大阪教育大）からの報告、②「高校教育における理科教育の現状」について増田哲夫氏（金蘭千里高校）が特に今問題になっている理科離れの実態に言及して報告、③「学術会議研連委の研究会の報告」を兼ねて水野孝雄氏（東京学芸大）が小中学校における理科教育の問題点について報告しました。その後、参加者から発言があり、現行の文部省指導要領の問題点や理科教育における天文学分野の位置づけについて等、多岐にわたる内容の議論がありました。

展示会の展示図書については大阪府教育センター図書室と各教科書出版社からの御協力を得ました。展示資料は天文教育普及研究会近畿支部の会員の皆さんの手作りによりました。展示会場の設営については大阪大学理学部の皆さんから多大な御協力を得ました。実行委員会より皆様に深く御礼申し上げます。

（文責 横尾武夫：大阪教育大）